

柏木教会月報

東京都新宿区北新宿3-1-18 ☎03-3368-2156 www.church.ne.jp/kashiwagi/

一人も滅びないで、永遠の命を得るために

ヨハネによる福音書三章一六～二二節

牧師 村松 恵美

神は、その独り子をお与えになつたほどに、世を愛された。
独り子を信じる者が一人も滅びないで、永遠の命を得る
ためである（一六節）。

ヨハネによる福音書三章一六節の言葉は、「聖書全体の要約」であるとも言われますが、ここを読むと、わたしたちのために示してくださいた神の愛が、どれほど大きく、深く、広いものであるのかを知らされます。神は世を愛された、それは、「独り子をお与えになつたほどに」愛されたと言われているのです。わたしたちのために、独り子であるイエス・キリストを十字架の死に引き渡された、それが神の愛です。神が独り子を与えてくださつたことに、わたしたちは、どれだけ思いを向けているでしょうか。神の独り子の命によって、わたしたちは生きる者とされたのです。

ヨハネ福音書で、「世」は、イエスの伝道の対象としての人間世界をあらわすものであり、この「世」の救い主として、イエスは来られました。しかし、この「世」は、イエスを受け入れることをしませんでした。「世」というとき、このヨハネ福音書では、特に、神を知らず、神から離れた世界を表わします。人間は、自分たちを救うために来られたイエス・キリストを受け入れることができず、イエスを

憎み、殺してしまいます。しかし、そのような世に、主イエスは来てくださいました。わたしたちの住むこの「世」は、争いが止まず、憎しみが満ち、暴力や不正で、いっぱいになっています。自らの造り主である神を知らず、自分の都合のよい神を作り出し、偶像を拝み、罪を犯し続けている、それが、この世のわたしたち人間の姿です。しかし、神は、そのような罪深い人間を、見捨てることなく、なおも愛してくれるのです。「独り子を信じる者が一人も滅びないで、永遠の命を得るため」です。

「滅びる」という言葉は、ルカによる福音書一五章のイエスの三つのたとえ、「見失つた羊のたとえ」「無くした銀貨のたとえ」「放蕩息子のたとえ」の中に、同じ言葉が使われています。「見失われた」、「無くなつた」、「いなくなつた」というのが、「滅びる」というのと同じ言葉です。つまり、「滅びる」というのは、本来あるべきところからいなくなつてしまふことを言います。滅びずに、本来あるべきところに帰る、神のもとに立ち帰り、神と共に生きようになる、それが、「滅びないで、永遠の命を得る」ということなのです。

神によつて造られたすべてのものが、一人も滅びないで永遠の命を得るために、神は独り子を遣わしてくださいました。十字架で死ぬことがわかつていて、御子をわたしたちのところに遣わしてくださいた神の計り知れない恵み、この神の愛に、わたしたちはどう応えていくのでしょうか。神は、悔い改めて帰つて来るすべての者を、それまで、その人がどのような歩みをしていたとしても、ご自分のものとして喜んで受け入れてくださり、復活の命に与らせてくださいます。それが神の愛なのです。